

1. 評価結果概要表

【評価実施概要】

事業所番号	0570207530
法人名	(有) 母恵夢
事業所名	グループホーム母恵夢
所在地	能代市字中川原26-984 (電話) 0185-54-3270
評価機関名	秋田県長寿社会振興財団
所在地	秋田県秋田市御所野下堤5-1-1
訪問調査日	平成20年12月15日

【情報提供票より】 (20年11月9日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	昭和・平成 14年9月 1日
ユニット数	1 ユニット 利用定員数計 9人
職員数	8人 常勤 5人, 非常勤 3人, 常勤換算 5.6人

(2) 建物概要

建物構造	木造 平屋造り	
	1階建ての	1階部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	18,000 円	その他の経費(月額)	円	
敷金	有 (円)	無		
保証金の有無 (入居一時金含む)	有 (円)	有りの場合 償却の有無	有 / 無	
食材料費	朝食	円	昼食	円
	夕食	円	おやつ	50 円
	または1日当たり		1,150 円	

(4) 利用者の概要 (11月9日現在)

利用者人数	9名	男性	0名	女性	9名
要介護1	2名	要介護2	2名		
要介護3	2名	要介護4			
要介護5	3名	要支援2			
年齢	平均 83歳	最低	76歳	最高	90歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	平野医院
---------	------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

ホームは住宅街にあり、日頃から近隣住民との交流が多く、地域との協力的体制がとれている。職員の交代は少なく、利用者と職員が、家族のように馴染みの繋がりを持って、毎日ゆったりと暮らしており、利用者一人ひとりの生活のペースに合わせて無理なく、その人らしい暮らしの継続ができるように支援している。

【重点項目への取組状況】

重点項目①	前回評価での主な改善課題とその後の取組、改善状況 (関連項目: 外部4)
	ケアサービスについては、内部研修を重ね、職員全体でチームケアの質の向上に努めている。
重点項目②	今回の自己評価に対する取組み状況 (関連項目: 外部4)
	職員全体で、自己評価を行っている。また、外部評価の意義を理解し、実施後に話し合いを行い、改善している。
重点項目③	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取組み (関連項目: 外部4, 5, 6)
	運営推進会議は、行政、町内会、老人クラブ、家族が構成員となっており、定期的開催されている。認知症についての勉強会・災害時の協力的体制等について討議し、サービスの向上に活かしている。
重点項目④	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映 (関連項目: 外部7, 8)
	毎月、家族に利用者の生活状況を報告し、その都度家族の意見を聞くように努めている。また、出来る限り利用者と家族の繋がりを持つように工夫し、サービスの質の向上に努めている。
重点項目⑤	日常生活における地域との連携 (関連項目: 外部3)
	近隣住民から野菜を差し入れて頂いたり、雪かきの手伝いをして貰う等、地域との繋がりが強い。気軽に、自由に訪れてもらえるようになり、開放的で地域に密着したホームである。

2. 評価報告書

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	家庭的な雰囲気のもと、地域の中でその人らしい生活ができるように、職員が手書きした理念を、分りやすく見やすい形で掲示している。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 運営者と管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	食堂と事務所に理念を掲示して、日常的に見ることができるようになっており、職員同士が常に話題にし、取り組んでいる。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	町内の祭典に参加したり、野菜を差し入れてもらったり、雪かきを手伝って貰う等、地域住民との交流が多く持たれている。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	職員全体で自己評価を行い、外部評価実施後に話し合い、早急に改善している。設備等についても、管理者から経営者に相談し、改善に努めている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	定期的に運営推進会議を開催し、外部評価の結果を報告している。また、町内会・老人クラブ等との情報交換を行い、サービスの向上に努めている。		
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	行政と普段から気軽に連絡を取り合い、共にサービスの質の向上に取り組んでいる。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	毎月1回、金銭の出納状況と利用者の生活状況を報告している。利用者の健康状態に変化が生じた時には、その都度電話や書面で報告している。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	玄関に意見箱を置く他、面会時や電話で意見を伺い、それらを運営に活かすように努めている。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	開設してから今までに、介護スタッフの交代はない。計画作成担当者の交代はあったが、コミュニケーションを多くして、利用者へのダメージが無いように努めている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、運営者自身や管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	外部研修には積極的に参加し、ホーム内で報告会をしている。また、国家資格の取得を奨励している。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、運営者自身や管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム連絡協議会に加入して、情報交換や意見交換をしている。同業者の訪問も受け入れて、サービスの質の向上に努めている。		
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気に徐々に馴染めるよう本人又は家族等と相談しながら工夫している	入居申し込みにあたっては、本人・家族に見学等により、グループホームの雰囲気を感じていただき、本人と家族が十分納得した上で、サービスを利用できるようにしている。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	利用者と職員は、家族のような信頼関係の中で、笑い声が絶えない共同生活を送っている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	一人ひとりのアセスメントを活用し、本人の希望に沿って支援し、無理のない生活ができるように努めている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	計画作成担当者と本人だけではなく、家族や介護職員が話し合いを行い、利用者本位の介護計画を作成している。		すでに実施されているが、利用者とすべての職員が、カンファレンス等で自由に意見を出し合い、更に、その方らしい生活が支援できる介護計画となるよう期待する。
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	あらかじめ設定した時期に評価を行い、利用者の状況の変化に応じて見直しを行っている。また、見直しの時期の前に、利用者の状態が変化した時は、その都度計画を変更している。		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	認知症対応型共同生活介護の事業所として、退居した家族の相談に応じたり、地域住民の相談に応じたり、柔軟な相談援助活動を行っている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	○かかりつけ医、かかりつけ歯科医、かかりつけ薬局等の利用支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医、かかりつけ歯科医、かかりつけ薬局等と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人・家族の希望を受け入れて、かかりつけ医を決め、適切な医療が受けられるように努めている。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	家族や医師に相談し、職員全員での話し合いにより、今後の方針を決定している。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	利用者一人ひとりを尊重して、言葉かけには十分に注意している。個人情報も厳重に管理している。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一人ひとりの生活のペースを最優先にして、決して無理をしない暮らしを支援している。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	食事作りを手伝える利用者と、一緒に準備したり、楽しみながら食事し、片づけを行っている。職員も利用者と同じ席に着いて、介助しながら食事をしている。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングや健康状態に合わせて、入浴を楽しむように支援している	本人の希望に合わせて入浴する日を決めており、入浴が嫌な時は、無理強いをしないで、翌日に行っている。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	本人の好きなことで自由に過してもらい、家事等の出来る事は行ってもらう等、その人らしい生活が継続できるように働きかけている。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	馴染みの美容院へ外出したり、職員と一緒に買物に出かけたりする等、積極的に外出の機会を作っている。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに努めている	日中は玄関を施錠せずに、自由に入出入り出来るようにしている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	災害時には、適切に行動する事ができるように、日ごろから訓練している。また、近隣住民にも災害時の協力をお願いしている。		
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう状況を把握し、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	献立を作成して、大まかなカロリー摂取量を把握し、栄養のバランスがとれるように工夫している。また、一人ひとりの状態に合わせて、食べやすいように刻んだり柔らかくする等、食形態を変えている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や臭いや光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共用の空間には、季節の植物や掲示物が飾られ、居間のテーブルの上には利用者の写真アルバムが置いてある。いつでも自分の写真を見ることができるようになっており、利用者にとっては、大変居心地の良い空間になっている。		全体的に居心地のよい空間になっているが、玄関に置かれている備品等の保管場所については、考慮されるよう期待する。
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	本人が自宅で使用していた物をそのまま居室に持ってきてもらい、安心して過ごせるようにしている。		

※ は、重点項目。